



共有すべき事例

疑義照会

相互作用



事例

【事例の内容】

定期薬としてテオフィリン徐放U錠200mg「トーフ」 2錠分2朝夕食後を服用している患者にチャンピックス錠が処方された。今まで、患者はタバコを毎日16本吸っていた。テオフィリン徐放U錠200mg「トーフ」の添付文書の相互作用には、禁煙（禁煙補助剤であるニコチン製剤使用時を含む）によりテオフィリンの中毒症状があらわれることがあるとの記載がある。そこで、テオフィリン徐放U錠200mg「トーフ」 2錠の服用を継続したまま禁煙することにより、テオフィリンの血中濃度が上昇する可能性があることを処方医に伝え、減量する必要性について確認したところ、テオフィリン徐放U錠200mg「トーフ」 1錠分1夕食後に減量となった。

【背景・要因】

未記載

【薬局が考えた改善策】

喫煙・禁煙が薬物代謝に影響を及ぼすことを考慮する。禁煙により血中濃度が上昇する薬剤を把握する。



その他の情報

チャンピックス錠0.5mg/1mgの添付文書（一部抜粋）

【使用上の注意】

2. 重要な基本的注意

(5) 本剤の投与の有無にかかわらず、禁煙により生じる生理的な変化のため、下記のような薬剤の薬物動態や薬力学が変化し、用量調節が必要になる場合がある。

テオフィリン、ワルファリン、インスリン等

また、喫煙によりCYP1A2の活性が誘導されるため、禁煙を開始後、CYP1A2の基質となる薬剤の血漿濃度が上昇する可能性がある。



事例のポイント

- ニコチン依存症の喫煙者に使用する禁煙補助薬のチャンピックス錠0.5mg/1mgが処方された際は、併用薬との相互作用だけでなく、禁煙によって起こる生理的な変化も考慮し、患者がタバコと相互作用のある薬剤を服用しているかを確認する必要がある。
- タバコと相互作用がある薬剤が処方された患者には、喫煙の有無を確認するとともに、喫煙・禁煙による影響を説明する必要がある。タバコと相互作用がある薬剤を服用中は、定期的な喫煙状況を確認することが望ましい。

